

平成20年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

— 次期開催地挨拶 —



石川県輪島市 副市長 大下泰宏

こんにちは。改めまして石川県輪島市の副市長大下と申します。私、初めてこのネットワークの総会に参加をさせていただきました。その上図々しくも次期開催地に手を上げて皆様方のご賛同、そしてご決定をいただきました。大変光栄なことと思いますと共に、心より感謝をしております。

さて輪島市でございますけれども、ご承知のとおり日本海に飛び出た能登半島の北端部に位置いたします。人口3万3,000人あまりの小さな地方都市でございますけれども、古来より海上貿易によって港町として発展をしてきたところでございます。そこに能登輪島港がございまして、北前船といった寄港地として繁栄をしてみりました。

輪島市の主産業は輪島塗でございます。この輪島塗もこうした海上交通を活用して日本海側の各港へ運ばれていったと、そこで販売をされて、さらにはそこから港から陸路を使って販路をさらに拡大をして輪島塗は今全国各地に津々浦々に広まっていったとこんな風に伝えられております。

しかし、明治以降陸路の発達と共に港は漁船にその主役を譲り渡すという形になってまいりました。現在でも輪島港では約400隻の漁船がひしめき合っております。沿岸漁業の基地として新鮮な魚介類を水揚げする日本三大朝市の一つでございます。観光地でも有名な輪島朝市に、日々新鮮な魚介類を供給しているということでございます。

また、近年は能登半島の沖合を航行する船舶の安全確保の為に、輪島港は避難港としての整備が進んでおります。この避難港を整備することによって生じてまいりますふ頭、これを何とか活用しようということで、私共では水深7.5mの旅客船岸壁、さらには緑地帯、市街地、開発用地、こういった土地合わせて17.8ヘクタールの埋め立てをしております。

この事業は、どちらにもあると思いますけれども、いわゆる輪島港マリプロジェクトとしておりま

して、この事業は着手して15年余り経ちまして、いよいよ来年度には全体が竣工する予定というふうになってまいりました。私共念願の旅客船岸壁が平成22年の春にはいよいよ完成をし、供用開始するということになっております。

このように、また、再び輪島の港が海上貿易のその扉を開こうとしているそんな時期にこのネットワークの総会が出来ますこと大変に意義の深いことでございます。今日の稚内市さんを見習い、お手本にして私共ももてなしの心で皆様方をお迎えして素晴らしい総会となりますよう努力してまいりたいと思っております。

最後になりますけれども、今年の3月25日能登半島地震が発生をいたしました。それからちょうど今日が1年と6ヶ月でございます。数えますと今日が550日目でございます。この間、全国から温かいお見舞いや力強い励まし等、大変多くのご支援を頂戴いたしました。この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げますと共に、こうした全国からのご支援に答える為にも全市一丸となって今復興を目指して懸命に取り組んでいるところでございます。

必ず来年には元気に復興している輪島市、頑張る輪島市を是非皆さんの目でじかにご覧になっていただいて、出来ますならばご提言、ご意見、あるいはご感想そういったものを承りたいとこのように思っている次第でございます。

皆様の中には輪島は随分地理的にも何か遠そうだなとそんなイメージがあるかもしれませんが、実は東京羽田から能登空港まで飛行機で1時間です。そして能登空港から市街地まで車で約20分という所でございます。この稚内市と同様アクセスは非常に便利な所だと思っております。今年日本のおぺん稚内、そして来年は日本のへそ、日本海のど真ん中輪島市でのこのネットワーク総会の開催地として皆様方のお越しを心からお待ちを申し上げます。どうぞよろしく願いをいたします。ありがとうございました。